

大阪市立北中道小学校 難聴学級



☆所在地 大阪市東成区中道 2-9-20

電話 06-6971-0440 FAX 06-6981-2317

☆沿革 ・大正 11 年 開校

・平成 24 年 創立 90 周年

・平成 28 年 大阪市のセンター校としての難聴学級を設置

・平成 31 年 難聴学級を 2 学級設置

・令和 3 年 創立 100 周年

1. 難聴学級センター校とは

大阪市内の小学校に在籍するきこえにくい子が、指定校変更の手続きをとり、通学区域以外の小学校へ在籍し通学ができる制度です。

大阪市内には難聴学級センター校が 2 校（北中道小・扇町小）あります。

2. 通学可能区域

北中道小の難聴学級へは大阪市内の南東部、北区にある扇町小学校の難聴学級へは北西部と通学可能区域が決められています。

ただし、通学時に利用する交通機関等の状況により調整を行うことがあります。

＊北中道小学校通学可能区域：天王寺区、東成区、生野区、城東区、鶴見区、阿倍野区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区

3. 難聴学級での指導

①実態の把握

- ・ことばの理解や表現力を調べるためのテストを定期的実施し学習課題を明確にしてから学習に取り組み、学習したことが定着したか調べます。
- ・必要に応じ、ききとりや発音の状況を調べるテストを実施します。

②聴覚管理

- ・補聴器や人工内耳が確実に使えるか（電池の状況を含め）、ワイヤレス補聴援助システム（Roger 送受信機）を活用する子は、使用できる状態にあるか毎朝チェックをします。
- ・医療機関や聴覚支援学校や通園施設など関係機関との連携を密にしています。

③学習内容

- ・国語や算数を難聴学級で学習し、他の教科等は通常の学級できこえる子どもたちと一緒に学びます。
- ・表現力（特に文章表現力）や文章を読み取る力が高められるように学習内容や教材を工夫しています。
- ・個々の実態に合わせて、手話や発音などコミュニケーション能力が高められるような学習もおこないます。

4. 難聴学級での取り組み

①情報保障

- ・ききとりやすい環境を整えます。全ての通常の学級内にある机やイスにデニスボールを付け騒音の軽減をはかり、ワイヤレス補聴援助システム（Roger 送受信機）を積極的に活用しています。
- ・きこえにくい子に確実に情報が伝わるように、手話通訳をおこなったり、話していることを文字で書いたものを用意したりするなど、視覚的に情報を得やすくなるように工夫をしています。

②きこえにくい子の自己認識を深める

- ・きこえにくい子が自分のきこえ方や、補聴器や人工内耳の効果や限界について詳しく知り、他の子どもたちに伝えられるようになることをめざします。
- ・自分がきこえにくく理解しにくい状況を把握し、それを改善するために他の子どもたちにサポートをしてほしいことが依頼できるようになることをめざします。
- ・依頼の仕方やサポートをしてもらった後の対応の仕方など、マナーが身につけられるようにめざします。

③きこえる子どもたちの意識を高める

- ・きこえにくい子どもたちの状況を詳しく知り、どのようにサポートをすればよいのか学び、主体的に実践できるようになることをめざしています。

④教育相談

- ・本校の難聴学級や難聴学級への入学にかかわることについて随時相談を受け付けます。
- ・入学前のきこえにくい子についても必要に応じ相談を受け付けます。

【北中道小学校へのアクセス】

○JR：森ノ宮駅から徒歩 500m（北出口より東へ「中道 2」の交差点を南へ）
約 10 分

○地下鉄：森ノ宮駅 6 番出口から徒歩 500m 約 10 分

大阪市立北中道小学校 難聴学級での学習：ポイントになること

1. 現状を正確に把握する

- ①言語理解力、読解力、文章表現力について調べるテストを用意しています。現状を確実に把握してから学習を開始します。
- ②上記のテストを毎年1回実施し、学習の定着や次の課題を明確にして学習を進めます。

2. ことばの理解力・表現力を高める

☆国語の時間を使い、教科書の内容を学習するだけでなく、次のようなことばの学習を行います。

① イメージを広げる

○ことばの理解を深める上で基礎になります。ことばについての知識を増やし、柔軟な発想ができるようになることをめざします。

○例：・1つの単語や文、絵などから連想することをたくさん表す

- ・文を読み感想や意見を表す
- ・文を読み話の続きを想像して表す

② 表現力を高める

○作文を書くとき、状況や自分の考えを読む人に分かりやすく説明することができるようになることをめざし、文や文章で表す学習を行います。

○例：・文を読み、取り組む手順や話の続きを考え表す

- ・短い文章を読み、自分の意見を表す
- ・短い文章を読み、原因や理由を説明する

③ 類推力を高める

○完全にはききとれなかった、きこえた内容が不十分だったなど、不利になる状況は起こりうるので、おおよその内容をつかみ、不十分な情報でも活用できるようになることをめざし学習を行います。また読解力を高めることにもつながっていきます。

○例：・文の空白になっているところに適切なことばを入れ完成させる

- ・会話している文を読み話題は何か考え表す
- ・文章を読み、要旨や作者のおもいを考え表す

3. 自己認識を深める

☆きこえにくい子どもたちが、自分のきこえにくい状況や不利になる状況について自分で把握し、それを改善できるように他の人に説明したり、働きかけたり（サポートを依頼する）することができるようになることをめざします。

☆難聴学級の取り組みとして、騒音の軽減を図ったり、話していることを文字で示したり手話通訳をしたりするなど情報を確実に伝えることを行い、子どもたちの意識を高めることにつなげます。

☆自己認識はステップをふみ深めていけるように考えています。

【自己認識を深めるためのステップ】

① 気づく

- ・補聴器（人工内耳）を使えば、きこえやすくなることが分かる
- ・自分の聴力が言える

② 分かる

- ・補聴器（人工内耳）の効果だけでなく限界についても分かる
- ・補聴器（人工内耳）装用時と非装用時のきこえ方の違いが分かる

③ 伝える

- ・自分のきこえ方や補聴器（人工内耳）の効果と限界について他者に説明できる
- ・サポートしてほしい時や方法について他者に説明することができる

④ 理解を深める

- ・状況に応じ自分にとって理解しやすい（情報を得るための）方法を把握する
- ・オーディオグラムの見方や自分の聴力の状態が詳しく分かる

⑤ 要望する

- ・状況に合わせ自分にとって分かりやすい方法を他者に説明し要望できる
- ・サポートを依頼する方法、サポートを受けた際の対応など、マナーを身に付ける

⑥ 主体的に行動する

- ・理解しにくかったり不利になったりする状況はないか主体的に確認する
- ・できるだけ正確に情報をつかむために主体的に質問をし、情報提供の依頼をしに行く